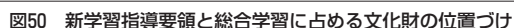


—ESDにもとづく総合学習の教材として—

SDGs・ESDにもとづく新学習指導要領と総合学習 持

続可能な開発目標（SDGs）への取り組みは様々な分野で進められている²⁾。教育面では、平成29年度公示の小学校の新学習指導要領（以下、新要領）にSDGsの視点が盛り込まれ、2020年4月から全面施行となる。日本で提唱されたESDは、世界遺産に限らず、地域の身近な事象についての現在と過去を学び、未来を考える中で、コミュニケーション能力や多面的思考力などを養うことを目的とする。ESDによる取り組みは、SDGsが掲げる17の目標の達成に繋がるとされ、年間の指導計画の各単元には、SDGsの各目標が意識して組まれることが多い³⁾。新要領の社会科では、3年生は身近な地域、4年生は都道府県について学び、地域に対する誇りや愛着、地域社会の一員としての自覚を養うことを目標として掲げる。全国版の教科書も同様の観点で編集されているが、地域学習にはそれぞれの地域に根差した題材選びが不可欠となる。



本項では、旧版同様、棚田嘉十郎らの活動を中心に据える。加えて、今回の改訂版では、先人たちの保存運動のみならず、その後の土地の国有化、史跡指定、24号線バイパスを迂回させたことにふれ、様々な経過をたどって平城宮跡が守られてきた歴史を紹介することにした。宮跡内に鉄道が走っていることや、大きく曲がりくねった国道24号線など、地元の子供たちにとって身近な風景の来歴を知することは、過去・現在・未来をつなぐ視点を育てるというESDの目標に合致している。何よりも、調査の進展が、史跡保存の進展に直結した事例を知っても





図52 新たに取り入れられた内容(左:72頁「平城宮跡の発くつ調査」 右:74頁「文化財や世界遺産とともに」)

らうことは、地域の文化財への理解につながるといえる。
「平城宮跡の発くつ調査」—現在・調査— 史跡として
 守られた平城宮跡で、現在どのような取り組みがなされ
 ているのか、奈文研の継続的な調査・研究を紹介する項
 目を設けた。なぜ発掘調査をするのか、子ども目線から
 の関心や疑問に対してやさしく解説している。「発くつ
 調査によって、当時の建物や生活の様子がわかるんだ
 ね」とし、そして「発掘調査でわかったことをどのよう
 に活用しているのだろうか」と、研究成果の還元方法に
 ついて、次項への展開を導いている。

「文化財や世界遺産とともに」—未来へ・活用— 将来に
 伝えるためにしていること」として、活用に焦点を当て、
 復原建物や展示施設での取り組みについて触れている。
 ここで重要なのが、ボランティアの活動である。研究成
 果や、平城宮跡の素晴らしさを第三者に伝える立場とし
 て、奈文研解説ボランティアは展示活用に欠かせない存
 在となっている。平城宮跡が多様な機関によって維持・
 管理・運営され、また解説ボランティアのような個々人
 の努力によって守られていること、その土台には地域の
 理解や想いがあることを知ってもらうのが狙いである。

今後の「平城宮跡」校外学習への影響 以上、『奈良県
 の暮らし』の改訂内容について紹介した。地元を過去・
 現在・未来から考えるというESDの視点で、平城宮跡の
 来歴を考えさせる内容であり、奈良県の子どもたちに、
 次の時代へ平城宮跡を伝えていく役割を担ってもらいた
 いのは勿論のこと、身近な市町村にある史跡や文化財に
 も興味や関心を持ち、地域の一員としてそれらを未来へ
 引き継ぐことを自覚する一助となれば幸いである。

今回、校外学習のテキストに平城宮跡が大々的に取り
 上げられたことで、学校団体による平城宮跡のさらなる

利用増加が見込まれる。平城宮跡の学校団体の利用は、
 県外が多く、県内の利用が少ないことがあきらかとなっ
 ている⁴⁾。その結果を受け、次年度以降、県内の学校団
 体を受け入れやすくするために平城宮いざない館の開館
 時間の繰り上げや、学習シートの配布を計画している。
 学習シートは、改訂版『奈良県の暮らし』に沿った内容
 かつ平城宮跡出土の展示品と関連した内容で⁵⁾、奈良市
 教育委員会と奈良県教育委員会の協力を得て、県内の全
 小学校に配布する予定である。文化遺産に恵まれた奈良
 県の子どもたちが学ぶ教材として、また、文化財や史跡
 の未来の担い手を育てる教材として、平城宮跡が今後よ
 り一層活用されることを願ってやまない。 (廣瀬智子)

註

- 1) ESD (Education for Sustainable Development) の略で、「持
 続可能な社会づくりの担い手を育む教育」と定義される。
- 2) SDGsとは、「Sustainable Development Goals (持続可能な
 開発目標)」の略称で、2030年までに達成すべき国際目標
 のこと。17のゴール・169のターゲットで構成され、教育
 は目標4に位置付けられる。ターゲット4.7に「持続可能
 な開発を促進するための必要な知識及び技能の習得」に
 向けて取り組むこととされている。
- 3) ユネスコ本部が認定したESDの推進拠点であるユネスコ
 スクールでは、特に意識して取り組まれることが多い。
- 4) 平城宮跡管理センターの2019年度の分析による。
- 5) 地域総合学習を意識した県内版と、修学旅行・遠足を意
 識した県外版の2種類を平城宮跡管理センターと共同で
 作成。

参考文献

日本ユネスコ国内委員会『ESD (持続可能な開発のための教育)
 推進の手引 (初版)』2016。
 文部科学省『小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 総合
 的な学習の時間編』2017。
 奈良市教育委員会・世界遺産学習連絡協議会『世界遺産学習
 全国サミットinなら世界遺産学習—これまでの10年これからの
 10年—』2020。